

下腿足部宿主動脈荒廃症例における膝窩動脈-脛骨神経内動脈バイパスの一例

旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野

柄塙 藍(とちくぼ あい; 33歳)

古屋 敦宏, 内田 大貴, 鎌田 啓輔, 中津 智己, 竜川 貴光, 栗山 直也, 東信良

74歳、男性。糖尿病性腎症で透析管理中。右第1, 3趾潰瘍のため当科へ紹介された。下肢動脈造影では右膝窩動脈の高度狭窄、前後脛骨動脈以遠足部本幹動脈までの慢性閉塞を認めた。足部への Distal Bypass は困難と判断し、まずは Inflow 再建として右膝窩動脈血栓内膜摘除を実施。治療後も SPP は右足背 17 mmHg、足底 21 mmHg で依然として創傷治癒には不十分であった。そこで下肢動脈造影で唯一開存していた腓骨動脈に対する Distal Bypass の方針とした。術中所見では当初吻合予定だった腓骨動脈本幹は石灰化が高度で遮断、切開は困難と判断、再度造影所見を確認した際に切開創近傍にある側副血行路を確認出来、探索した結果脛骨神経内動脈であった。脛骨神経束を慎重に剥離し、露出した動脈に末梢吻合を行った。術後の最終グラフト血流は 67ml/min を確認出来た。全足部切断となつたが潰瘍は治癒傾向にある。下腿足部の宿主本幹動脈荒廃例においては側副血行路 Bypass の一経路となり得ると思われた。

ファクス：0166-68-2499 電話：0166-68-2494